



「自助・共助・公助」

地域の防災力向上に活用を！

新しい“避難マニュアル”

を配布します

町では、平成26年12月に地区別の「避難マニュアル」を作成し、町民の皆さんが地震や津波、洪水や土砂災害等への備えとして、自分や家族の命を守るために必要な情報をお知らせしてきました。

この間、北海道から、平成29年2月に日本海沿岸の新たな津波浸水想定区域の公表や複数の土砂災害警戒区域等の新たな指定があり、また美国川の洪水浸水想定区域の見直しなどの変化

がありました。

これらの災害想定に関する情報の変化に対応するため、すでにお知らせしている避難場所や避難所を変更しなければならぬような新たな内容ではありませんでしたが、これまで町民の皆さんに配布した「ハザードマップ」を部分的に修正した地区別の避難マニュアルや防災マップを作成しました。想定される災害の種類を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上に取り組んでいただけるよう、近く町民の皆さんに配布します。

地域の学習会や避難訓練などでこの避難マニュアル等を活用いただき、「自助」、「共助」、「公助」の地域の3つの防災力の向上に地域ぐるみで取り組むために、町では担当職員を派遣しますので、お気軽にご相談・ご連絡ください。

## 危険な空き家を増やさないために 建築物の適切な維持管理をお願いします

通年居住をしていない建物は空き家とされ、積丹町内でも適切な維持管理が行われず放置されることにより、周辺の住民生活環境にさまざまな悪影響や危険を及ぼしています。

すでに空き家となっている建物を適正に管理していくこと、また、空き家となる前に親族内で“誰が相続し、管理や取り壊しを行うか”など“建物の今後”について話し合い、危険な空き家の増加防止への取り組みをお願いします。



### (1) 空き家を放置しておくとは何がおこるか

万が一、空き家が原因で近隣や通行人に損害を与えた場合には、所有者または管理者が建物の管理責任を問われます。

### (2) 管理責任があるのは誰なのか

所有者、または所有者の相続人が該当します。ただし民法上では、相続放棄をしても、次の相続人が決まり建物の管理を行うまでは、相続放棄した方にも管理責任があるとされています。

### (3) 建物の適正な管理とは

人が住まなくなると建物は早く傷みます。定期的な建物の点検を行うことにより、建物の状態が維持され、周辺環境の悪化や不動産価値の低下を防ぐことができます。

#### 【空き家の放置と社会的問題】

- ・景観や治安の悪化
- ・建物の劣化、老朽化の進行による周囲への被害
- ・放火による火災の発生
- ・ゴミや廃棄物の不法投棄の発生
- ・動物のすみかとなる など

#### 【建物の点検・維持管理方法】

- ・通風、換気、通水の実施
- ・雨漏り（カビ・腐食）やヒビ割れなどの点検
- ・建物の外周清掃・草刈り
- ・建物周囲や屋根の除雪作業の実施
- ・緊急時の連絡先を近所の方や自治会などに伝える

更なる技術向上へ日々訓練！ No.9

ドクターヘリを活用するた  
めに

北後志消防組合積丹支署（俄谷支署長・署員17名）には、救急隊に加え、6名の救急救命士がいますが、処置の範囲には限界があり、医師・看護師が必要な重症の傷病者が発生した場合は、ドクターヘリを要請していただきます。

治療を開始するための「救急医療専用ヘリコプター」です。町でも毎年3〜4名の傷病者がドクターヘリで搬送されています。

1月29日には、札幌市でドクターヘリ事例検討会が行われ、同支署の隊員が「船内で発生した急病患者に対するドクターヘリ要請事案」と題した発表を行いました。発表後は、医師と看護師、道内の各消防職員と意見交換を行い、様々な視点からの対処法などを学び、今後に役立つ内容でした。

今後、町の急傾斜地や山岳などで訓練を重ね、救助技術の向上はもちろん、訓練の課題等を活かしながら、万が一事故が発生した場合に安全・確実に救助活動ができるよう努力していきます。



▲ドクターヘリ事例検討の発表

新たな救助技術を習得

様々な分野の救助に関する訓練プログラムの構築と講習を行う、民間トレーニング組織



▲ロープを使った救助訓練

「レスキュー3社」による講習会が2月13日、14日の2日間、余市町で行われ、14名の隊員が参加しました。

講習会では、机上講習や実技講習を行い、基本的なロープ操作、機材による高度なレスキュー技術など実践的な救助技術を学びました。

講習会では、「冬の地震・津波発生時の行動」や「けが人の救出、応急救護」、「災害に対する備え」など、座学と実技を交えて行いました。

”防災講習”を成人学級で

教育委員会が主催する「入舸地区成人学級」が2月8日、入舸会館で行われ、3名の隊員が災害発生時の備えなどを入舸町の皆さんに伝えました。

講習では、「冬の地震・津波発生時の行動」や「けが人の救出、応急救護」、「災害に対する備え」など、座学と実技を交えて行いました。

参加者からは、「災害発生時に自分たちで手当ができるよう、今回学んだ止血法や固定法、身近なものを使った応急手当の

仕方などを役立てたい。」との声が多く聞かれました。

積丹支署では、防災講習や消火器体験、救命講習などに職員派遣を行いますので、お気軽にお問合せください。



▲講習会に参加した入舸町の皆さん

積丹町移住定住PR短編映画  
「映文連アワード2017」上映会

昨年11月、町の移住定住PR短編映画『超・過疎化力 少なさは、贅沢。シャコタン』が、日本映文連アワード2017（東京都）で優秀賞を受賞し、その作品の上映会が2月17日、札幌市内の映画館で行われました。

この短編映画は、積丹町の過疎を逆手にとって、自然に恵まれた積丹町への移住定住を呼びかける内容です。

また、動画配信サイト「YouTube」に動画が配信されておりますので、ぜひご覧ください。

